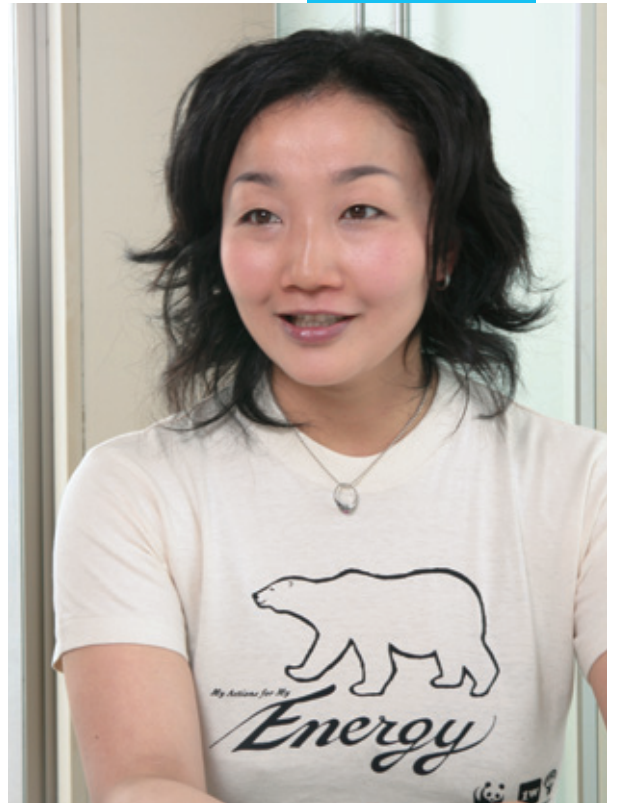


NPOインタビュー

石橋 香絵 さん

Kae Ishibashi



■特集■ 地球の未来を拓く新エネルギー

一人ひとりが エネルギーを選ぶ社会へ

コンセントにプラグを差し込めば、誰でも簡単に手に入れられる電気。この電気が何からつくられているか、どれだけの人が知っているだろうか。個人がエネルギーを選択する未来に向けて、自然エネルギーを選びたいという一人ひとりの小さな気持ちを集めて大きく育てる石橋香絵さんに、世界を取り巻くエネルギー問題や活動の魅力についてお話をうかがった。



ガソリン価格の高騰など、エネルギー問題を身近に感じる機会が増えました。

最近、ガソリンや穀物の価格が上がったという話をよく耳にしますが、それはあくまでも結果です。根底にある原理は、地球資源には限りがあるということ。使いつづければいつかはなくなる石油をどんどん掘り進めていけば、新しい油田を見つけて採掘したり、残った質の悪い石油を精製したりしなくてはならず、コスト高になります。農地にできる土地も有限なので、トウモロコシや大豆などの農作物は食用かエネルギー用かで競合してしまふ。

世界で起きている紛争の多くは、資源、特にエネルギー資源の奪い合いが根底にあるのです。ふだん何気なく使っている電気製品の電気が、一歩間違えばどこかで誰かの命を奪ってしまうかもしれないのです。

日本はエネルギー資源が乏しい国ですから、原子力も再生可能エネルギーもがんばらなくてははいけません。原子力の力に頼る前に、風や太陽の力を使った再生可能エネルギーをもっと増やせたらいいですよ。現在、日本の電力会社は1パーセント程度の電気を再生可能エネルギーから発電するように義務づけられています。一方、ヨーロッパでは個人が自発的に、風力を使いたい、太陽光を使いたいと銘柄指定で電気を買える仕組みがある。

私たちは日本でも個人が自然エネルギーを選べる仕組みをつくることで、再生可能なエネルギーが増えることを目指しています。

個人が自然エネルギーを選ぶとは、具体的にどのような活動ですか。

最初は電力会社が企業向けに販売していた「グリーン電力証書」を、個人に売る活動から始めました。普通の電気が8円だとしたら、太陽光の電気は40円と5倍も高い。「グリ



写真中央と右は「太陽光発電を増やしてCO₂を削減する」商品。カレンダーは約6kg、Tシャツは約12kgのCO₂を削減する。写真左は太陽のエネルギーを実感するための自作太陽光充電キット。出前講座も受け付けている



埼玉県小川町に太陽光パネル第一基目が設置されたときの記念写真



野外フェスティバルの「渚音楽祭」にて、自作太陽光充電キットの講座を開設

「イン電力証書」は、「その高い費用を私が払います」と約束するものです。でも、例えば50000円払って、味気ない証明書一枚じゃ誰も買いませんよ。買ったなら、それをTシャツにしてしまえ!と思ったのです。Tシャツを一枚買うと、あなたがひと夏に使うエアコンの電気(約250kWh)(注1)が自然エネルギーになる。デザインもかわいくて、「俺今年のエアコンは堂々と浴びられるぜ」と見せびらかすこともできる。寄付するのではなく、自分の電気を選んで買う。この考えが受け入れられて、大手自動車会社がついてきた200万kWhを超える、210万kWhの自然エネルギーを個人が買う結果となりました。

それを一歩発展させたのが、現在のマナジー・プロジェクト。Tシャツ一枚につき10000円が太陽光パネルの設置に使われ、1Wの太陽光発電の設置、12kgのCO₂削減を約束しています。すでにある発電所の電気を買うのではなく、そのお金で新しく太陽光パネルを設置しよう!というのが進化した点です。2007年、埼玉県小川町に太陽光パネル第一基目が設置されたときは感動しました。一人ひとりの小さな力が集って実を結んだのです。

個人の力を集める秘訣は。

「おもしろさ」と「実感」です。例えばTシャツなど、一つひとつの商品には買った人だけのシリアル番号が入っています。その番号をウェブサイトに取り込むことで、プロジェクトの進行状況がわかり、自分がお金を出した分で設置された太陽光パネルが今どのくらい発電しているのか、また削減したCO₂はどの程度になるのか、リアルタイムで知ること

**なぜこのような活動に
取り組もうと
思ったのですか。**

昔テレビでドキュメンタリーを見て関心をもち、大学でエネルギーの問題を学びました。その後は政治家のアドバイザーをしたり、研究所でエネルギー問題を分析したりしていたのですが、知れば知るほど、これはなんとかしなければいけないという思いがふくらんできたのです。もちろん、今すぐ再生可能エネルギーだけでやっていくことはできません。でも、できない理由をみつけて、どうやってそれをひっくり返せばいいのか、真剣に考え続けてきました。その結果、もつと草の根レベルから、

一番喜びを感じる瞬間は。

活動に共感してくれた人が、身銭を切ってTシャツを買ってくれる瞬間は本当にうれしいです。学生、主婦、電力会社の社員さん、反原発の活動家、そして坂本龍一さんのような著名人の方まで、実にいろいろな人が応援してくれました。最初は250枚から販売をスタート。本当に売れるのかドキドキしながら、一枚売れるたびに涙が出そうになっていましたね。人の心には、自分の子どもや大切な人のために、より良い社会をつくりたいという気持ちがあるのだと実感した数年間でした。ただし、Tシャツを買ってもらえないのはひとつのきっかけにはなりません。夫と二人で全国行脚して、一人人を超える人とエネルギーの話をしてきました。出会った人の中には、エネルギー問題を語る漁師さんや、自然エネルギーは好きではないときちんと説明できる雑貨屋のおばちゃんもいた。私たちの活動は、みんながエネルギー問題に関心を持つきっかけであり、何か行動したいと思ったときの選択肢のひとつにな

最後に、読者へのメッセージをお願いします。

まずはエネルギーの問題を考えてみてください。そして行動の第一歩を踏み出してほしい。何も考えずにコンセントから電気を使うのは、電力会社に全てお任せしていただけるから。この状態で、原子力は嫌いだと無責任に言い放つことができるでしょうか。原子力推進も原子力反対も、同じように良い社会をつくりたいと思っ

て行われている活動です。それに対して個人としてどう考えるか。私はどう動くのか。意志と行動を示すことが大切です。

(注1) kWh(1時間)に消費されるエネルギー(キロワット)の単位。
(注2) 太陽光発電のモニタリングシステムは現在開発中。

**世界マナジー基金では
正会員・賛助会員募集中!**

興味のある方は、ぜひご連絡ください。詳細はホームページをご覧ください。また、マナジー・プロジェクトとWWFジャパンのPANDA SHOPでも好評発売中です。

【活動写真提供】世界マナジー基金 取材：文／木村倫子 写真／吉竹めぐみ